

令和6年度 大田区立開桜小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

・児童数: 646名 学級数: 21学級 (令和6年9月2日現在)
・大森第二小学校と大森第六小学校が統合して「開桜小学校」となり、今年度開校22周年を迎える。
・行事や学習を通して、地域に開かれ、共に歩む学校を目指し、地域の特性を生かした教育活動を行っている。(町工場・商店街・こらぼ大森の見学、内川学習、海苔つけ体験、稚魚放流体験、外国人留学生との交流、キャリア教育、園芸・読書ボランティアとの活動等)
・令和3年度から、授業スタイルに「ハンドサイン」を導入して、主体的に授業に取り組んでいる。また、「魔法の座り方」についても、学校全体で取り組んでいる。 ・令和4年度から、7つの習慣の考え方を生かした学級指導、学年指導、学校経営を推進している。
・令和5年度は、学校・家庭との連携強化を図り、教育効果を上げていく。
・令和6年度は、これまでの教育活動を基に、コミュニティ・スクールのスタート、おおた教育ビジョンの実現に向け、教育活動を展開していく。

令和7年3月6日

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄					
								評価	人数	コメント			
生予個 き測別 困目 力難標 をな1 育未 成し社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	258	A4「以前より主体的に取り組むようになった」とアンケートで回答した児童の割合が85%以上。	4:	◇コロナの5類以降、児童が主体的に取り組むような場面や機会を教職員が意図的に設定した。 ①勉強ができた・分かった ②話し合い活動 ③異学年交流など ◇学校行事や学校公開の様子を通して、こどもたちの変容を感じ取られた結果であると考える。	A	7	・自分の考えを持ったり、発言したり、判断し行動する場面を作ることが大切であると考えます。簡単なテーマでのディベートやグループ討議など発言する機会を増やす取組はどうでしょうか。逆の立場になる授業を学校公開で行っていたが、とても良いと思います。「家庭でも色々な立場で話し合ってみよう」の宿題などで立場を変えて話し合う機会を作るのも良いかもしれません。 ・他教科とそれぞれ連携した総合的な学びで、こどもたちがさらに主体的に学び、力をつけられるよう宜しくお願い致します。 ・この問題は、難しい課題だと思います。 ・教職員の努力の結果、良くなったのでしょうか。 ・公開授業に伺った際、先生方が色々と工夫し、準備されている様子が伝わってきました。こどもたちも、活発に話し合いや授業に取り組めているように感じました。			
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		B4「我が子が主体的に取り組むようになった」とアンケートで回答した保護者の割合が85%以上。						388	3:	A3 B4
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		A3 80%以上。 B3 80%以上。 A2 70%以上。 B2 70%以上。 A1 70%未満。 B1 70%未満。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	279	2:								
③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		1:										
お世個 お別 たと目 をづ標 担な2 うが 人材 国を 際育 都成 市し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	383	A4「自分と違う考えを受け入れている」とアンケートで回答した児童の割合80%以上。 B4「家庭で、違う文化について話題にしたり、触れたりしている」とアンケートで回答した保護者の割合80%以上。	4:	◇日本語以外の言語を使える児童が身近に増え、自然に受け入れ融合していると感じる。日本語指導や翻訳機等を使用しながら、丁寧に対応している。 ◇家庭での会話の中に、違う文化について話題にする機会が少なかったのが原因の一つと考える。 ◆グローバル化が加速していく中で、教職員、保護者の意識改革が必要であると考える。	A	8	・グローバル化が進む社会なので、コミュニケーション能力や文化・価値観の理解が必要だと思います。それには、「日本」の文化や伝統を理解することが大切であり、自分の国を知ることがグローバル化につながると 생각합니다。地域を知り、愛することはとても重要だと思います。 ・学級内でも様々な国籍の児童が増えて、先生方の日々の努力で教室が安定しているのがわかります。自然と日常の生活の中で、こどもたちのコミュニケーション能力がグローバル化にも対応しているのを見ると、一人ひとりの先生方の有能さを感じます。 ・英語教育を増やす試みは必要なことです。こどもたちのグローバル化に対する対応が急務である。 ・家庭で和やかなだんらんを取りづらい世の中です。学校と家庭の連携が必要です。日常生活に余裕がないと取り組めない項目。頑張りましょう。 ・外国にルーツを持つこどもたちが多くなってきて、先生方もご苦労されていると聞きました。体や性格等生まれながらの特徴を差別したり攻撃する様な事がないように願っています。(こどもも同志が) 地域においても、こどもたちや高齢者、障害者などと共に気持ちよく生活できるよう、命を大切にする「空気」と「土壌」を作っていきたいと思います。			
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		A3 75%以上。 B3 75%以上。 A2 70%以上。 B2 70%以上。 A1 70%未満。 B1 70%未満。						388	3:	A4 B1
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	275	2:								
③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		1:										
た一個 め人別 の目 基と標 礎り3 とが な個 る性 力と を能 力成 をを し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	396	A4「進んで勉強する、進んで体を鍛えている」とアンケートで回答した児童の割合が80%以上。 B4「保護者も、勉強したり、体を鍛えている」とアンケートで回答した保護者の割合が80%以上。	4:	◇様々な強化週間を実施するなど、地道な活動を真剣に継続したことでのような結果につながったと考える。 ◇「子供に勉強しなさい」という割には大人と一緒に取り組む意識、習慣が不足していると考える。 ◆児童に対しては、自ら進んで取り組む意識付けを、保護者に対しては、無理のない範囲で一緒に取り組むよう意識付けや啓蒙活動が必要だと考える。	A	9	・一緒にいることがキーワードになると思います。会社でも問題が起こった際には、職位の高い職員は言葉で言うことを聞かせようとするきらいがあります。汗をかいて動いている姿を見せられたら良いのですが……。 ・「保護者と一緒」、こどもたちにとっては素晴らしい言葉ですが、余裕のない家族事情のある家庭のこどもが、増々取り残され、疎外された気持ちにならないか少し不安になります。 ・定期的な補習学習で学力の定着が向上し、学ぶ意欲につながると 생각합니다。日々継続的なご指導のおかげだと思います。 ・こどもたちの個性を伸ばすには、褒めることが大事です。 ・健康教育では、「姿勢教室」講習で「魔法の座り方」を学んでいました。生きる活力を呼び込む取組です。 ・両親とも働きながら、しかも長時間労働で体も心も疲れて、帰宅してからこどもへの声掛けも荒くなるということも少なくないのかなと思います。また、最近の急速なデジタル化や教育現場の変化に親自身の学習体験とのギャップも一つの要因で、親から子への声掛けが少なくなっているかもしれません。何れにしても、親自身がこどもの学習に少し長い目で見られる余裕と、学校への信頼が大切だと感じます。			
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		A3 75%以上。 B3 75%以上。 A2 70%以上。 B2 70%以上。 A1 70%未満。 B1 70%未満。						396	3:	A4 B2
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。										
③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	392	2:										
④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		1:										

学 校 別 力 ・ 標 教 4 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 92	A4「授業が分かりやすい、授業が楽しい」とアンケートで回答した児童の割合が85%以上。 B4「質の高い教育を実現するため、学校は努力している」とアンケートで回答した保護者の割合が85%以上。	4:	◇教師自身が自己研鑽をしたり、区内外の研修会に積極的に参加をしたりして、授業力の向上に努めた。 ◇校内OJTを実施し、互いに学び合う機会を設定し、学びを深め合った。 ◇校内研究授業を年間を通して実施し、授業力の向上に努めた。 ◆教師自身が研究と修養に努め、日々研鑽していくことが重要である。	A	9	・各人のスキルアップをお願いいたします。夜間まで残って授業の研究をされているのを見てみると、頭が下がります。 ・教職員の前向きな行動の「賜物」です。ありがとうございます。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 92	A3 80%以上。 B3 80%以上。 A2 70%以上。 B2 70%以上。 A1 70%未満。 B1 70%未満。	3:			1	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	2 63		2:				
		④校内研究のもと、7つの習慣を取り入れた教育活動を通して、自立した児童の育成に取り組んでいる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2 75		1:				
た 自 個 め 分 別 の 目 学 し 標 び く 5 を い 支 援 い き ま す と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 96	A4「先生方は、話を聞いてくれたり、寄り添ってくれる」とアンケートで回答した児童の割合が85%以上。 B4「学校は、児童一人ひとりを大切にした教育活動を行っている」とアンケートで回答した保護者が85%以上。	4:	◇一人ひとりを大切にする教育活動を展開することを念頭に行ってきた結果であると考ええる。 ◇児童が学校での様子を保護者に伝えたり、学校公開や行事の様子から感じ取ってくださったりした結果であると考ええる。 ◆引き続き児童の様子を丁寧に見取り、適切に対応できる資質・能力を向上させていくことが重要である。	A	9	・学校公開や面談で先生を知り、話すことが大切だと思います。こどもから、学校はどうだった？給食は？など家族間でコミュニケーションを取れば、学校の様子なども垣間見えるのかもしれない。 ・日頃のご指導の成果が十分現れている結果だと思います。 ・海外からの転校生の対応ご苦労様です。引き続き、教職員の組織力で頑張ってください。 ・校長先生が掲げている「7つの習慣」など、自ら実践している姿から、こどもたちも、親・地域の方も信頼を深め、協力をしようとの気持ちも強くなってきていると思います。これからも、宜しくお願い致します。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4 100	A3 80%以上。 B3 80%以上。 A2 70%以上。 B2 70%以上。 A1 70%未満。 B1 70%未満。	3:			1	
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 100		2:				
						1:				
安 柔 個 心 軟 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 境 な を 学 ぶ 空 間 ま と 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 96	A4「ICT機器のルールを守り活用できている」とアンケートで回答した児童の割合85%以上。 B4「学校は、安全・安心な学校づくりに努めている」とアンケートで回答した保護者の割合85%以上。	4:	◇ICT機器の使用ルールの重要性を理解させながら、遵守するように指導した結果であると考ええる。 ◇学校は、トラブルの未然防止に努め、スピード感をもって対応した結果であると考ええる。 ◆家庭においては、ユーチューブやゲーム等の視聴時間が増加している。今後は、各家庭での話し合いによるルール作りが必要であると考ええる。	A	8	・セキュリティ面など問題はないと思います。高学年はスマホ等も使用するかと思うので、ネットリテラシー等も必要になってきます。 ・情報を正しく判断し、上手にコントロールすることが求められる時代です。トライ・アンド・エラーしながら進みましょう。 ・内川やノリの養殖、町工場など、地域の歴史をこどもたちに伝え育んできた先生方のご努力は、大切に貴重な実践だと思います。地元の方々のご協力も得ながら、これからもお願いいたします。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 100	A3 80%以上。 B3 80%以上。 A2 70%以上。 B2 70%以上。 A1 70%未満。 B1 70%未満。	3:			2	
		③ICT機器を活用して、児童に資料を提示したり、タブレットを活用したりして、分かりやすい授業づくりに取り組んでいる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 92		2:				
						1:				
学 地 学 個 校 域 校 別 を コ ・ 目 つ ミ 家 標 ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 す イ 域 の 核 連 と 携 し ・ て 協 働 の 協 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 92	A4「地域のことを学んだり、地域行事に参加したりしている」とアンケートで回答した児童の割合 85%以上。 B4「学校は、保護者や地域と連携している」とアンケートで回答した保護者の割合85%以上。	4:	◇地域行事が復活し、多くの児童が参加している印象がある。ただ、高学年の参加児童が少ない気がする。 ◇教員が地域行事に参加するようになり、保護者・地域との連携が深まった。教員が、児童の学校外での表情を見ることができたことも良かったことだと考える。 ◆祭礼、防災訓練、餅つきなどの地域行事に親子で参加する機運を醸成していくことが重要である。	A	8	・地域の中核としても学校の役割は問われています。災害時の防災拠点にもなっており、運用など考えることは多いと思います。地域・こども・学校・教師・保護者が協力できるネットワークを作れるように話し合いが必要だと思います。ラジオ体操・盆踊りなどのイベントに積極的に関わることの必要性も感じました。 ・校長先生の熱意で近隣では、一番開かれた学校だと思います。良い事、悪い事、オープンに両方お話しされる森先生は、とても信頼できます。 ・学校と地域の連携は、良くとれていると思います。先生方、ありがとうございます。 ・今後とも、児童の安全・安心に努めていただきたいです。町会としての行事に多数参加してもらえるように努力していきます。 ・学校と地域の連携は、大切です。コミュニケーションを図りながら、歩みましょう。 ・こどもたちを大切に地域で見守り育てていきたい、という気風が大森西地域には根付いている様に思います。先生方には、地域と交わりが深く広くなると、その分、ご苦労が生まれるかも知れませんが、地域には、長い歴史に裏打ちされた知恵と力を持った方がおりますので、声をかけられたら力になってくださると思います。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 96	A3 80%以上。 B3 80%以上。 A2 70%以上。 B2 70%以上。 A1 70%未満。 B1 70%未満。	3:			2	
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 88		2:				
						1:				

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す